

和寒町への恩返し

和寒町立和寒中学校 三年 和久 葉澄

私は、部活動でクロスカントリースキーをやっています。町の補助をもらって、長野県で開催される全国大会にも出場しています。

だから、私は、この税金を「ぜいきん」と読むのではなく、「期待」、「応援」という意味が込められていると思っています。

私達は、町民が納めた税金で全国大会に出場しているだけではなく、期待されて、応援されて、背中を押してもらっているのです。全国大会は、私一人で戦っているわけではありません。全国大会に出場できるまでに、多くの人が関わり、町のみなさんに手を貸してもらって、私はスタートをきることができています。

だから、私は町のみなさんへ恩返しをしたいと思っています。でも、お金で恩返しができるわけではありません。自分が今すぐ税金を納めて、町の発展に関われるわけでもありません。

私が、今、できることは、町のみなさんの期待に、応援に精いっぱい応えることです。結果で、走りでも恩返しをすることです。町のみなさんへの感謝、これからへの希望を与えられるようにすることです、これが、今、私にできる最大限のことです。

これから、まだまだ私の部活動にはお金がかかります。練習をする場所も、大会を運営するための人も、たくさんのものが必要になります。多くの人々の手助けが必要になります。その時、町のみなさんには、大きな世話をかけることになります。それでも、町のみなさんは、私達をサポートし、応援してくれています。町のみなさんの税金、サポートによって、私は思う存分、部活動に打ち込むことができます。

税金によって、助けられている人が多くいます。私も、そのうちの一人です。税金には、多くの種類があつて、一人あたりの負担も増えていっています。私は、今、消費税ぐらいにししか関わっていないから、まだ、負担の重さはわかりません。それでも、私がいつか、税金を納めるときがきたら、たくさん助けてもらった分、年配の方にも、未来ある少年、少女の方々の助けをしたいです。

私は、税金という名の期待、応援に応えられるよう、今はたくさんサポートしてもらいながら、一生懸命練習に取り組み、町のみなさんへ恩返しをしていきたいです。